

日本技術士会DEI推進宣言

参考資料(抜粋)

2025年(令和7年)4月

公益社団法人 日本技術士会
男女共同参画推進委員会

日本技術士会DEI推進宣言（概要図）

目指す姿

日本技術士会は、多様・多彩な技術者、技術をつなぐプラットフォームとして、誰もが能力を発揮し、誰もがその人らしく生きられる社会の実現に貢献します

Diversity (多様性)

性別、年齢、国籍、障害、知識、経験、専門性、価値観などの多様性を受け入れ、さらに高める

Equity (公平性)

すべての人が活躍できるよう、一人ひとりの個性や特性に応じた環境、ツールを公平に用意する

Inclusion (包摂性)

個性や特性のちがいを包摂することで、すべての人が能力を発揮し、組織全体で新たな価値を創出する

基本方針

DEIを推進する3つの「シンカ」

1. 意識の深化 ～DEI風土・文化の醸成～
2. 仕組みの進化 ～多様な技術士の活躍～
3. 社会貢献で真価 ～多様な技術による社会課題解決～

DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）とは、多様性を包摂し、誰もが公平に活躍できる状態をつくり、新たな価値創出などの組織力を高めようという考え方

策定の趣旨 「なぜいま？」

本会の使命

技術士の品位の保持、資質の向上等を図ることにより、科学技術の向上や国民経済の発展、国際交流の推進に寄与し、さらには広く社会に貢献する（定款第3条より）

社会動向

- 不確実性の時代
- ジェンダーギャップ
- 少子高齢化
- 働き方改革 など

本会の現状と課題

- 多様性の尊重の明示
 - ・ 組織行動規範
 - ・ 技術士倫理綱領
- 会員構成、体制
- 各種活動 など

日本技術士会DEI推進宣言

DEI、すなわち多様性（Diversity）、公平性（Equity）及び包摂性（Inclusion）の推進により、すべての技術士が活躍し、社会課題の解決やウェルビーイング*の向上に貢献することを宣言します

*ウェルビーイング（Well-being）とは、肉体的・精神的・社会的に満たされた状態

基本方針 「何が大事？」

基本方針

DEIを推進する
3つの「シンカ」

1. 意識の深化～DEI風土・文化の醸成～

日本技術士会は、技術士や技術士を目指す方の多様性を高め、誰もが活躍できる風土・文化を醸成します。また、これらの方がDEI推進の意識を深め合えるよう支援します。

2. 仕組みの進化 ～多様な技術士の活躍～

日本技術士会は、仕組みや取組みの進化により、性別、年齢等の多様な会員が活躍できる環境を拡大します。これにより、DEIを推進する行動の促進や多様な技術士の活躍につなげます。

3. 社会貢献で真価 ～多様な技術による社会課題解決～

日本技術士会は、技術を通じたコミュニケーションの機会を増やし、本会内外でDEIを実践する活動の輪を広げ、社会課題の解決やウェルビーイングの向上につなげることで、私たちの真価を一層発揮します。

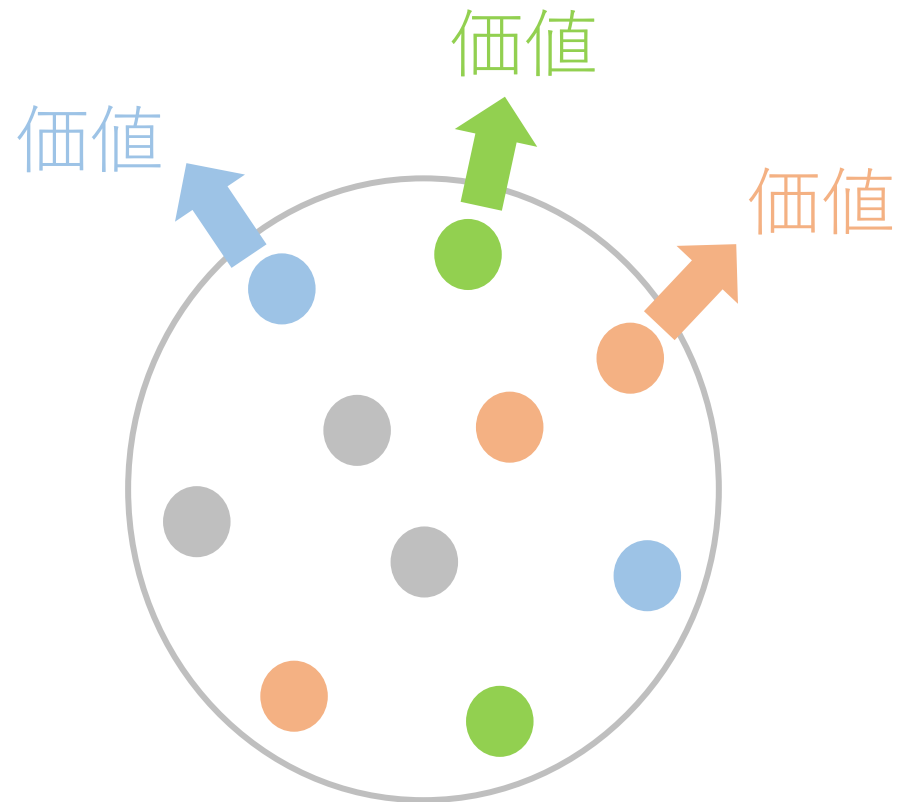
取組みの方向性（イメージ） 「何をする？」

※今後、アクションプランを検討予定

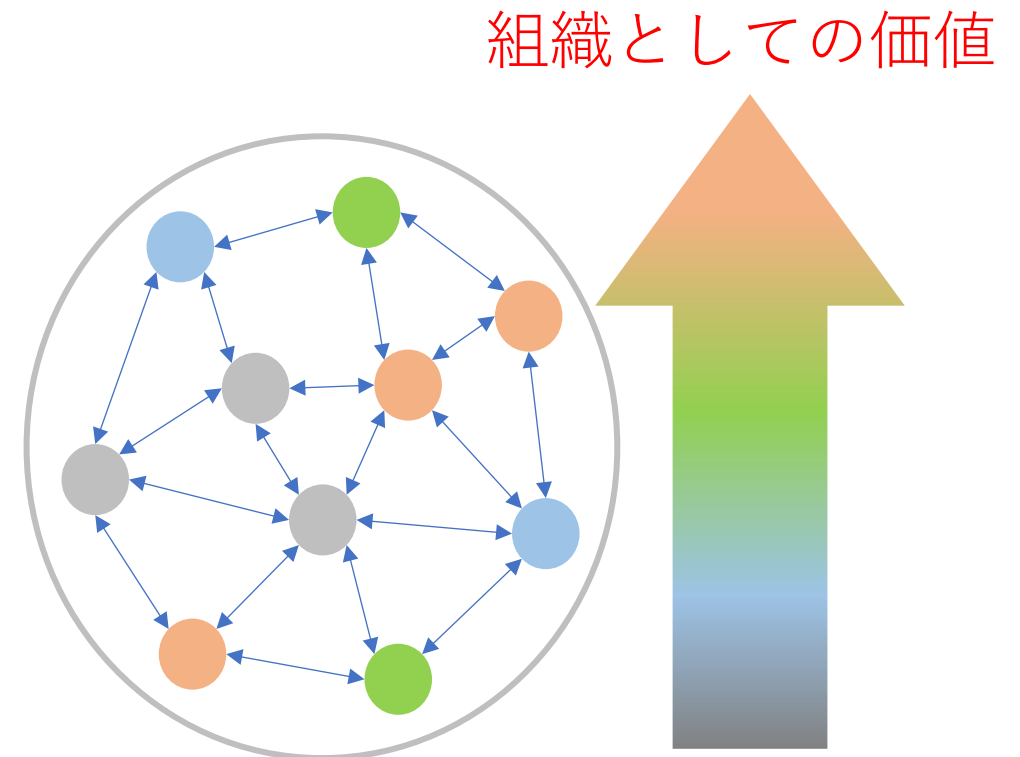
区分 3つの「シンカ」	日本技術士会の取組み	技術士・会員への期待
1. 意識の深化	- 多様な人材の育成に向け、技術士の情報提供を拡充 - DEIの意義や課題について知る機会を拡大など	技術者倫理やDEIについて学ぶ など
2. 仕組みの進化	- 技術士、会員、委員、役員、講演講師等の多様性を拡大 - 多様な会員が公平に活動できる仕組み・取組みを推進 - 技術士を目指す女性や若手の技術者が育つための取組みを推進 など	職場、地域組織等のDEI推進に向けて行動 など
3. 社会貢献で真価	- 分野、経験等の多様性の包摂による本会の強みを発揮 - 技術士の交流を促すプラットフォーム機能の強化 - 企業、教育機関、行政等との連携を推進 - 海外の技術者団体との連携を強化 など	- 社会貢献活動に参加 - 良き理解者、相談相手として女性や若手など多様な人材を育成 - グローバルに活躍する技術者と情報を交換 など

インクルージョンとは？

インクルージョンとは、多様な個が力を発揮するだけでなく、個性や特性のちがいを包摂することで、相乗効果を得て組織全体で新たな価値を創出することを意図しています。



ダイバーシティ
 多様な個による力の発揮

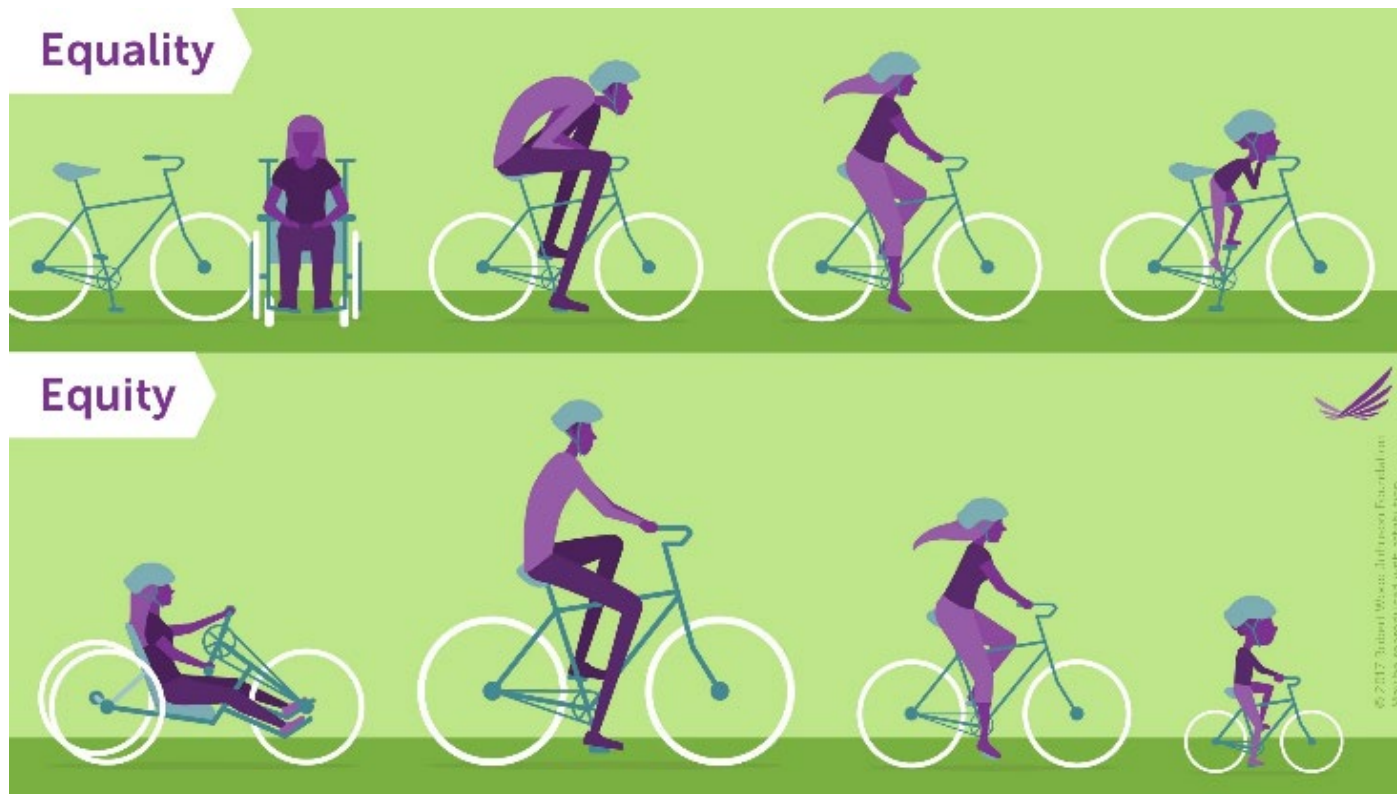


ダイバーシティ & インクルージョン
 相乗効果で価値を発揮

D&IからDEIへ 「平等では不足？」

これまでのD&Iの概念では現状が改善されにくかったとし、公平性（Equity）が追加され、DEIが広く提唱されるようになりました

Equityは、一人ひとり、スタート地点が違うことを前提に必要な環境やツールを提供するという考え方です

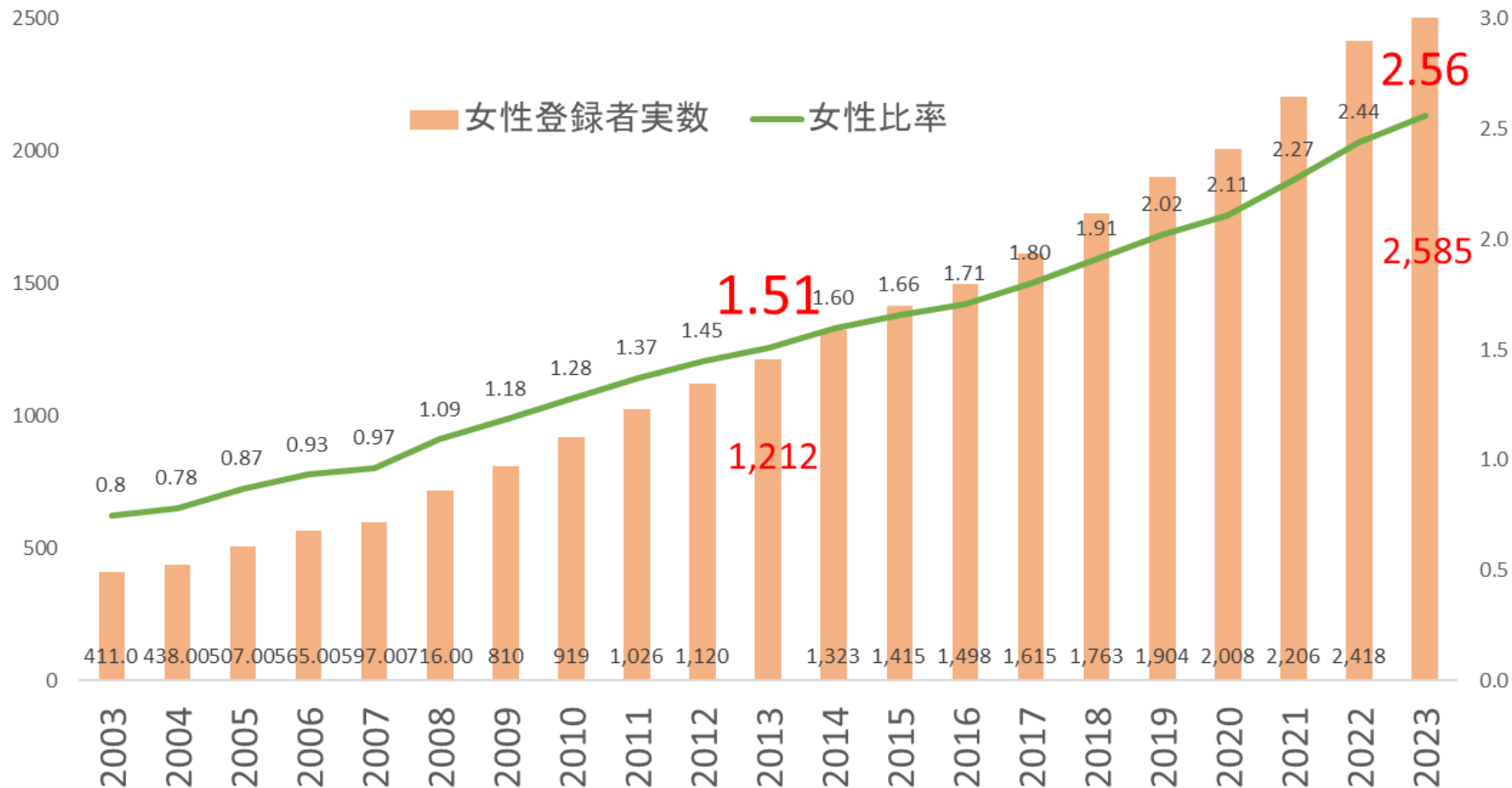


- 平等（Equality）：誰に対しても同じツール・機会を与える
- 公平（Equity）：個別の状況や環境を考慮しながらリソースを与える

技術士に占める女性 「10年で1%増」

女性技術士は10年間で1,373名増え、2,585名と倍増

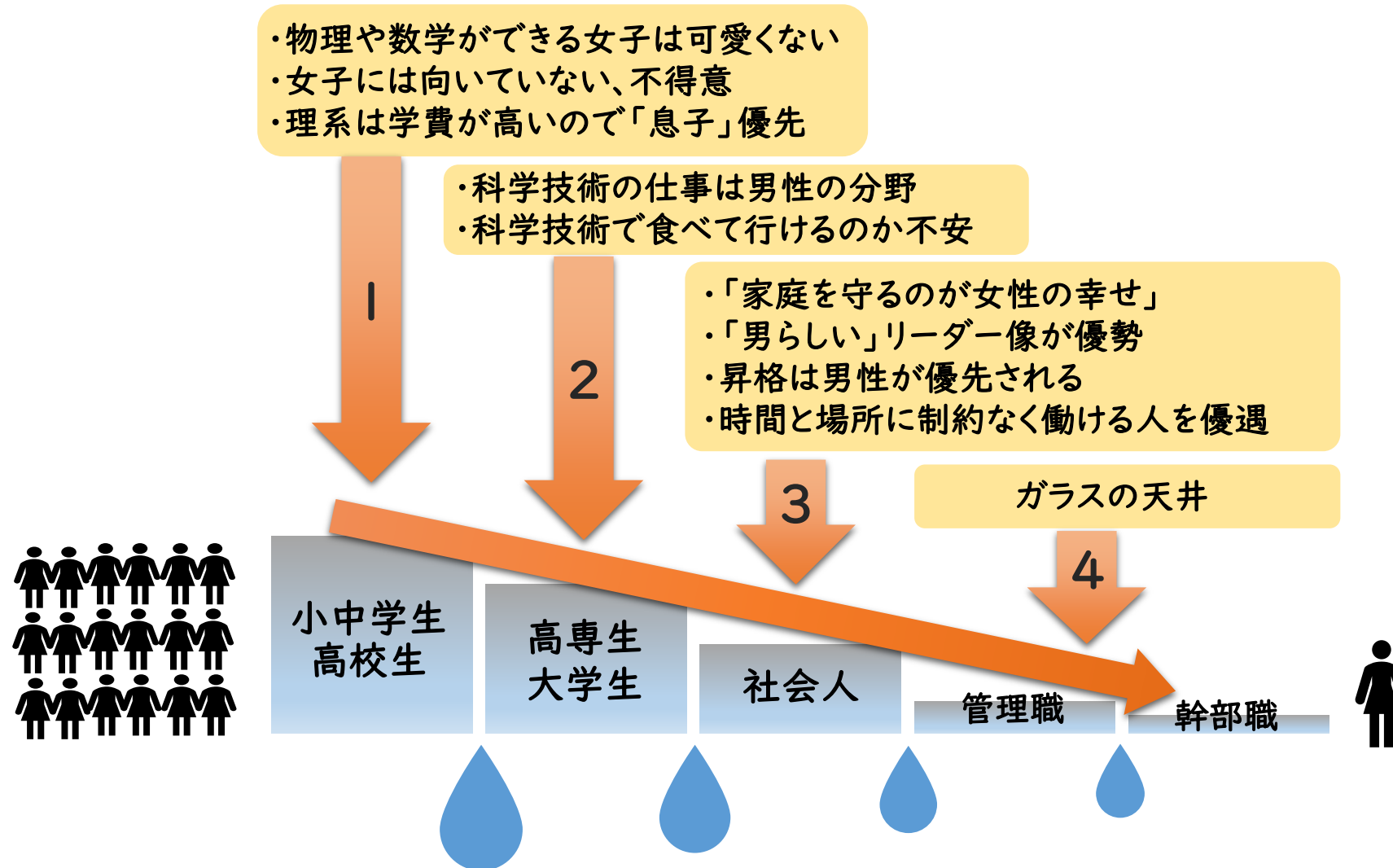
技術士に占める女性割合は増加傾向にあるものの、10年間で1%増にとどまり2.56%



※数値は各年度末

STEM女性 「なぜ少ないの？」

「無意識のバイアス」によりキャリアのパイプラインが先細り



STEM分野とは

- ・ 科学 (Science)
- ・ 技術 (Technology)
- ・ 工学 (Engineering)
- ・ 数学 (Mathematics)

無意識のバイアスとは

- ・ 自分でも気付かない
- ・ 誰でも持っている
- ・ 育った環境、経験、マスメディアなど周囲の影響が大きい

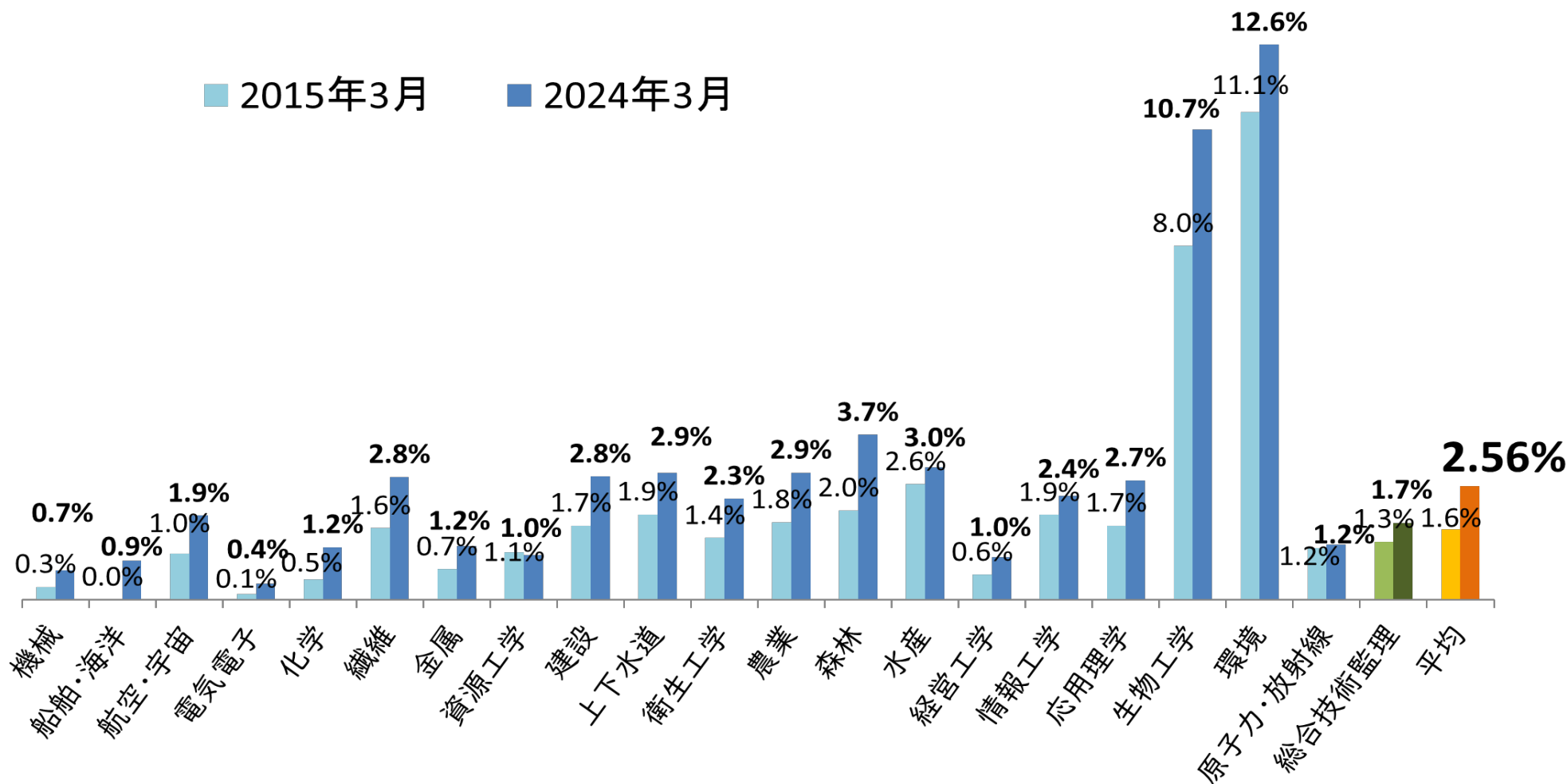
ガラスの天井とは

- ・ 能力や実力のある人材が、性別などを理由に昇進やキャリアアップを妨げられている不当な状態の比喻表現

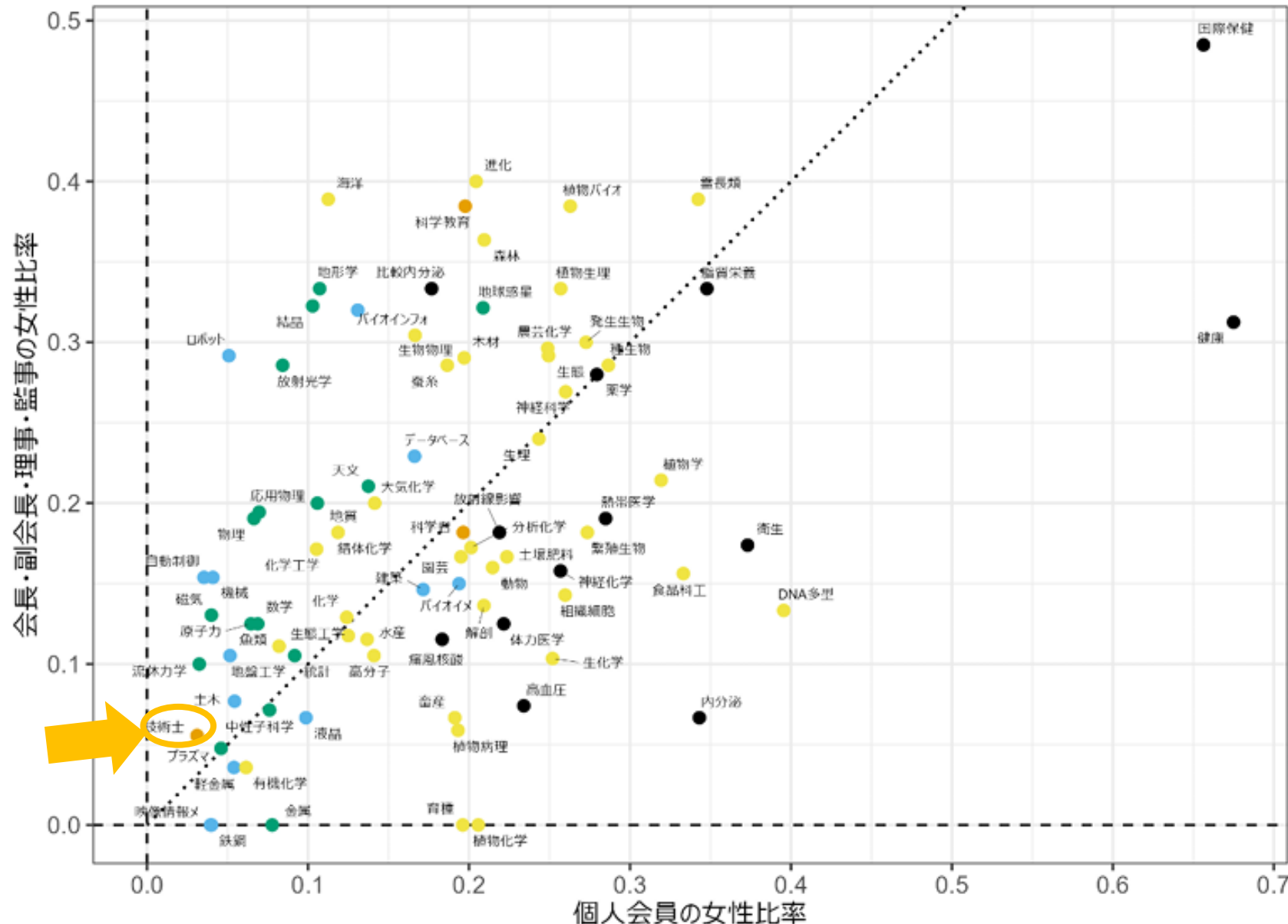
技術士の部門別女性割合

技術士登録者に占める女性割合

部門により0.4%（電気電子）～12.6%（環境）と幅があり、平均2.6%



学協会別会員・役員の女性比率の関係 (N=84)



- 本会の女性比率は3.3%で回答学協会の中で最も低い
- 役員等の女性比率5.7%で低位

分野

- 医・歯・薬学
- 社会
- 情報・工学
- 数・物・地学
- 生・化・農学

出典：男女共同参画学協会連絡会2023年女性比率調査
https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2023_ratio/2023_ratio_results.pdf

日本技術士会の組織行動規範 (2022年3月17日)

1. 健全な組織活動

2. 個人の尊厳と多様性の尊重

(1) 個人の尊厳の尊重

差別やハラスメントなどの個人の尊厳を傷つける行為を許しません。

(2) 多様性の尊重

一人ひとりの人格と個性を尊重し、多様性を尊重する人間関係を構築します。

3. 社会との調和

4. 持続可能社会構築への貢献

(1) プラットフォーム機能の充実

(2) 技術系人材育成への貢献

5. 役員の責務

技術士倫理綱領

9 相互の尊重

技術士は、業務上の関係者と相互に信頼し、相手の立場を尊重して協力する

(1) 技術士は、共に働く者の安全、健康及び人権を守り、多様性を尊重する

旧版の「権利を守る」を変更し、お互いを個人として尊重する姿勢を明確に表現

技術士倫理綱領への手引き

<解説>

(1) 技術士は、業務に関連して共に働く 技術士や技術者、その他全ての関係者（共働者(a)）の 安全と健康、人権に配慮すると共に、各人の多様性を尊重し、ハラスメント(b)・差別(c)などが発生しないよう周囲にも注意を払う。

(a) 共働者：同じ組織やチームに属するなど、業務に関連して共に働く技術士や技術者、その他全ての関係者。

(b) (c)略

女性技術者育成への提言 Ver.2 (2019年9月)

男女共同参画推進委員会は、2013年に国が示した「2020年までに指導的地位に女性が占める割合30%」の目標達成に向け、2015年6月に「女性技術者育成への提言Ver.1」を発信。その後、国の目標値変更があったことから、一部修正し、2019年9月にVer.2として以下を発信。

1. 教育機関においては、女性の職域の多様性を紹介することが重要である。
2. 女性は結婚、出産等のイベント年齢をあらかじめ特定できないため、一律ではなく個人に即したロードマップが有効である。
3. 女性の力を最大限伸ばすためには、所属長や先輩は、良き理解者・相談相手となるべきである。
4. 女性の指導的地位を確立し、指導的立場の女性の増加に向けたロードマップが必要である。
5. 業種・業界の枠を超えた取り組みが必要であり、多くのロールモデルや導入した制度などの情報を共有し、幅広い活動を展開、社会全体で意識を醸成すべきである。

男女共同参画推進委員会 検討体制

氏 名	宣言検討プロジェクト チーム (9名)	部 門	担 当
小牛田 尋志	●	情報工学	副委員長 (理事)
飯島 玲子	●	建設/総合技術監理	委員長
池田 紀子		応用理学/総合技術監理	D&I
石野 智子		経営工学	D&I
榎並 万里子		建設	支援 (副小委員長)
岡野 利之		水産	支援
加藤 靖広	●	建設/環境/総合技術監理	広報
亀田 佳代子		情報工学/総合技術監理	支援
北浦 直子		建設	D&I
木戸 ゆかり	●	応用理学	支援
古賀 沙織		資源工学	D&I
小林 裕典	●	衛生工学	D&I (副小委員長)
嶋田 弘僧		情報工学/総合技術監理	広報
瀬尾 弘美	●	建設/総合技術監理	D&I (小委員長)
高橋 健一	●	建設/総合技術監理	副委員長/広報 (小委員長)
武井 加代子		建設	広報
中田 よしみ	●	原子力・放射線	支援 (小委員長)
沼澤 朋子		経営工学	支援
原田 敬美		建設	広報
前澤 峰雪	●	機械/総合技術監理	広報 (渉外)
柵木 環		農業	広報 (渉外)